

宝塚市ヒアリング調査結果報告

11月24日午前9時30分宝塚市3-3会議室に於いて
宝塚市出席課 水政課、都市計画デザイン課
開発指導課、公園緑地課
出席委員 伊藤、長峰、佐々木
事務局 松本、前川、木本

事前配布表に基づきヒアリング調査を行なった。

河川整備計画で20～30年、基本方針ではそれ以上先の超長期の見通しをたてる河川の計画に対し、総合計画や都市計画マスタープランでは現行の残存で5～6年、策定年度から考えても10年先の見通しである。そのあたりのギャップを念頭に踏まえて意向を述べていただいた。

質問 1. 武庫川流域の今後の人口予測、市街化動向、土地利用動向について、また土地利用転換、開発指導や抑制策について

<現状と課題>

質 開発指導の現状について、とくに市街地縁辺部緑地帯の開発と流出抑制等に対する指導

質 南部市街地の大規模遊休地の土地の状況・例えば高松町や御所の前あたり

- ・現在の人口は22万人
- ・平成10年～12年が開発のピークであった。 参考資料：「宝塚市の開発事業の現状」開発指導課
- ・昭和40年代の開発による住宅街の高齢化率が非常に高く、開発時期の違いによる地域の偏りが問題となっている 山手に開発されたほとんどの住宅街が該当する。とくに千種、中山台、阪急住宅が開発した平野部（元水田地域）の住宅地（鶴の荘、星の荘、売布1丁目等）
- ・流出抑制に関する指導については、宝塚市独自で「水のマスタープラン」を策定し、3,000㎡以上の開発については条件をつけて誘導している。
- ・グリーンベルトと呼ばれる地帯では国立公園、墓地の問題や管理者の問題により地図上に市境界の引けないゾーンも存在する。
- ・大規模遊休地については、現状ではアミューズメント施設が建設されたりマンション化が進んでいる。

<今後の動向>

質 流域の総合治水等を検討する上で今後の人口予想、将来土地利用の動向（とくに急傾斜地等）、市街地の土地利用転換動向 等

質 逆線引きの可能性はあるのか

質 北部地域の土地利用の将来動向、とくに宝塚新都市開発について

質 南部市街地、とくに山麓住宅地の高齢化と土地利用の将来動向

質 現在非常に多くのゴルフ場が立地するが、将来の人口減少を考えた場合のゴルフ場の行く末

- ・総合計画での平成23年の人口予測は23万人となっており、今後6年間で1万人の人口増加を見込んでいる。

- ・今後市街化区域の拡大は行なわないことを明言しており、そのため逆線引きは不可能である。山間部の開発もしないということである。

- ・大規模遊休地については、現在ほとんどが都市計画図のうえでは黄緑色（第一種中高層住居専用地域）であるが、将来は緑色（第一種住居専用地域）になるよう誘導し、低層住宅地化を目指している。 都市計画マスタープラン
- ・武庫川右岸は、緑地保全を目指している
- ・武庫川左岸についても緑地保全を目指している。 中山ニュータウン等
- ・宝塚新都市開発については市総合計画で謳われており、第2名神の計画が具体的に進んでいることから組織的にも現存する。しかし、実態としてあまり活発に活動はされていない。現在西谷に新都市整備課・用地買収課が残存しており3名の職員により構成され、用地については市が管理し、地元向けに動いている。第2名神のインターチェンジが誘致され、大原野に阪神野外CSR施設(都市近郊型里山公園)を整備するという計画になっている。しかし里山林整備計画も何も動いていない。
- ・ゴルフ場について、流域外になるが旭国際ゴルフ20haは、そのうち2~3haが墓地となり残りはゴルフ場の形を生かして自然・緑地保全をする。将来ゴルフ場が廃業されるようなことがある場合、ゴルフ場の形を生かし、自然を戻すような形になるのではないか。

質問2.武庫川と連携したまちづくりや都市づくりについて、現在あるいは今後取り組みたいこと

<現状と課題>

質 武庫川周辺における現在実施中あるいは構想中のまちづくりについて

質 市内中小河川や水路、池を活かしたまちづくりへの取り組みの現状

- ・中心市街地（S字橋周辺）等、マイタウン・マイリバー整備事業をはじめとして水辺に向いていないのが問題である。
- ・一方では、うまく水辺を活かせていないということもなく、今年の台風23号の爪あとを生かし、「デジホタル」などの企画も行なっている。
- ・武庫川大橋と並行した人道橋を整備したり、鴨川を参考にした取り組みをしている。
- ・ため池については、主に農業用水としての利用、特異な例としてはゴルフ場の打ち放しなどがある。ほとんどが財産区であり、全て市で把握している。
- ・公園が不足しており、公園の確保に池の埋め立てが当てられている。 例えば山本新池公園

<今後の動向>

質 武庫川を活かしたまちづくりに対して

質 市内中小河川や水路、池等を活用したまちづくりに対して

- ・ため池は「水のマスタープラン」では保全することになっており、どのように活かすかは今後の課題である。 河川整備基本方針・整備計画の提言次第である
- ・「水のマスタープラン」では、市内の中小河川でアメニティーや遊歩道の整備を誘導している。 例えば大堀川の遊歩道など具体的に事業化されている

質問3.武庫川の景観や環境の保全と育成、武庫川に関わる地域資源の活用について

<現状と課題>

質 景観整備への取り組みの現状と課題について

質 とくに武庫川からみた景観、街からみた武庫川、あるいは長尾山、六甲山系、甲山への望遠景観との調和 等

質 景観基本計画の進捗状況

- ・景観についてはデザイン審議会があり、見下ろしたり見上げたりすることにより景観の評価をしている。
- ・武庫川沿川に連立するマンションでは、眺望合戦が勃発し景観裁判にまで発展しているのが現状である。結果としては、景観は敗訴した。武庫川沿いに連立するマンションラッシュの中、当初建設されたマンションは、長尾の山並みが見えるようにスリムな棟にし、河川から一定幅の後退をした。しかし、後から建設されたマンションは建蔽率や容積率を優先し、先住民との景観裁判にまで発展した。結果として、景観は敗訴した。
- ・都市景観基本計画については策定しているが非常に厳しい状況にあり、観光プロムナード程度で精一杯である。観光プロムナードでは民間が頑張り川や景観を意識しても、市が建てたものがコンクリート打ち放しではどうしようもない。
- ・高齢化の進んだ住宅街では、景観のためにかつて生垣助成によりつくられた生垣の手入れができず、生垣が塀やフェンスに変わりつつある。
- ・地区計画は現在全体の一割程度である24地区(自治会単位)で行なわれている。
- ・都市計画マスタープランでは、小学校区をコミュニティーの単位とするまちづくり協議会を形成し、現在7ブロックで構成されている。自治会単位では20ブロックとなる。

<今後の動向>

質 武庫川周辺に立地する高層マンション、工場、パチンコ店等への景観指導

質 武庫川の緑化や景観樹林の整備等、西宮市や尼崎市に比べて劣るが、今後の対応は

質 浮世絵にも描かれていたように武庫川の景観といえば松である。しかし近年宝塚市ではかなり減少しているように思われるが、保全されているのか

質 景観法適用への積極的取り組み、武庫川等河川を景観重要公共施設としてまちと一体となった適切な整備を図る 等

質 武庫川緑地軸と市内の貴重で多様な地域資源とのネットワーク整備について

質 これらへの具体的取り組みとして「川の駅」構想について

- ・景観法の適用については、積極的にという意味は理解できない。現在建物としては19棟、地区としては小浜・仁川高台等が指定されているが、景観行政団体にはなりたくない。市民のためには、六甲・長尾の山並みや武庫川の景観を活かすという総合計画で十分であると考えている。
- ・松についてはこれまでに幾度もチャレンジしたが、松喰い虫や近年の環境問題から守りきれない状況にある。しかし、まだ残っている。最近では郵便本局裏の松を移植保全しようとしたが景観を維持したいという意見があり、残すこととなったが結局枯れた。

質問4. 武庫川のスポーツ・レクリエーション利用、イベント利用、学習利用等現在取り組んでいること、今後取り組みたいこと

<現状と課題>

質 現状の武庫川及び高水敷の利用状況及び課題

質 河川とまちとのネットワークづくりの現状と課題

質 他市域との連携による武庫川の活用状況

- ・旧河川敷ではテニスコートやラグビースクールなどが展開している。
- ・西宮市と連携し、ハーフマラソンを開催している。

< 今後の動向 >

質 今後の取り組みについて

- ・西宮市とはマラソンを通して唯一連携しているが、隣接する伊丹市との連携企画は一度も行ったことがない。同じ市内においても歴史的な背景をもつ川を隔てた地域の確執は今もなお存続しており、川を通して地域を束ねるのは今後においても難しい。川を隔てて学区も変わる

質問 5. 武庫川総合治水の一環として、現在取り組んでいる防災対策、超過洪水対策、今後取り組みたい対策

< 現状と課題 >

質 水のマスタープラン策定の背景と策定後のフォローアップ

質 庁内の協力体制について

質 策定後の成果、課題について

質 市民へのPR、諸活動への市民参加 等

質 その他の取り組みの現状

質 超過洪水対策の現状

質 内水被害防除への対応 等

- ・「水のマスタープラン」は、ダムの話がなくなったことから市としても何かしなければという思いと、これまで汚水優先で内水災害への取り組みが遅れていたことから、治水・利水・環境を意識して平成 11 年に「治水のマスタープラン」を策定した。庁内各課で協力体制をとっているが、県の浸水区域図が定まらないのでハザードマップが作成できず、何を推進するにも計画するにも作成待ちといった状況にある。
- ・ハザードマップ作成予算はいつでもスタンバイしており、来年度予算にも計上可能である。
- ・河川整備が進む中、現在も内水被害が問題視されているのは大堀川である。大堀川は、国道下のボックスカルバートがネックとなり、30～40 mmの降雨でこれまでに何度も浸水被害を起こしている。武庫川合流点付近の伊丹市水道施設に雨水ポンプ(昭和 58 年)を設置し、河床を下げたり道路側溝に一定の整備を施した結果、今年の 23 号台風では被害はなかったが、依然としてボックスカルバートの問題は解消していない。
- ・荒神川でも汚水優先から内水への対策が遅れており、23 号台風でも本線合流付近での逆流が起きているなど、豪雨の際の内水被害が度々起きている。
- ・県の浸水区域図が作成されていないので市としてのハザードマップが作成できない。その他水防計画に際しても全てハザードマップ待ちの状況にある。
- ・校庭貯留については、「水のマスタープラン」に掲げている。現在新設、建替え校にはタンク貯留施設を設置することとしているが、予算が問題となっている。タンク貯留が主流であるが、光が丘中学では巨大なコンクリート槽による貯留施設も設置している。県立宝塚北高校ではグラウンドの校庭貯留を行なっているようである。
- ・各戸貯留については既に補助を行なっており、平成 19 年で国からの補助がなくなるが、引き続き市から補助を行い今後も展開させていきたい。
- ・透水性舗装については技術的な問題から現在歩道のみとして整備している。
- ・末広運動公園については、水防に関しては問題があるとの指摘があり、今後浸水区域図、ハザードマップの作成の結果により機能や活用についても考えていきたい。

< 今後の動向 >

質 今後の取り組みについて

質 水防活動の現状と河川防災ステーション整備の可能性について

- ・水防については地域防災計画の中の水防計画に記されている。
- ・水防倉庫は小浜、高松町に在るが、水防団がないため自主防災となっている。今後コミュニティと関連して整備する必要がある。
- ・防災ヘリポートはとくに専用はないが、現在市役所の敷地を充てている。
- ・河川防災ステーションについては、県の浸水区域図と河川基本方針・整備計画の提言に依存し、考えたい。